

映画 かば

西成を生きた教師と生徒ら

奈良県上映会

IN 平群町！！

不登校・いじめ・貧困
昔も今も変わらない
子ども達の叫び！

「この学校にはな、部落か在日か
沖縄しかないんや！
よそもんは引っ込んでけや！！」

その SOS に正面から
向き合い続けた大人達がいた！

大阪西成（昭和60年）の中学校を舞台に
怒りと悲しみを抱えた生徒たちと
共に涙し寄り添った先生たちの実話を元にした物語

前を向いて
強く生きて欲しい

後援：

平群町教育委員会

川本貴弘 監督来場！！

《上映場所》

平群町総合
文化センター

【研修室 1A, 1B】

(奈良県生駒郡平群町吉新3-1-34)

2026年

5月30日(土)

オープン 12:00

① 12:15～14:30

② 15:00～17:15

③ 17:45～20:00

5月31日(日)

オープン 9:45

① 10:00～12:15

② 12:45～15:00

③ 15:30～17:45

在日でも、日本人でも関係ないねん。
お父ちゃんに生きてて欲しかった…

《映画「かば」とは…》

映画「かば」は、大阪市西成区の実在する公立中学校をモデルに実話を元に制作した映画です。タイトルとなる「かば」とは、当時(1980年代)にその学校で教鞭をとっておられた蒲益男(かばますお)先生から取りました。蒲益男先生は、2010年に志半ばで58歳で病死されました。蒲先生が居られたこの中学校は、校区が100%部落地域(60%被差別部落 30%在日部落 10%沖縄部落)と全国でこの学校しかない世の中の矛盾が集まったような地域です。その地域には悩みを打ち明けられない子ども、不登校になる子ども、荒れる子ども達が多く居たと聞きます。この学校の先生達は子ども達が荒れる原因は社会にあり、その影響が家庭に起こると考えているため、いわゆるお勉強よりも家庭訪問、その子ども達の家庭を覗いてみる。親御さん達ともしっかりと話してみる。を実践としてやってこられました。

この映画「かば」は1985年(昭和60年)の時代を描いています。なぜ今の問題を描かないのか? そんな意見もある中、原作 脚本 監督 である、僕が本作品で描き伝えたい事は、被差別部落とは? 在日差別とは? 沖縄差別とは? という事だけではなく、時代と共に教育のあり方や差別の形、そして何より子ども達の環境も変わってくると思いますが、子ども達に向き合い寄り添っていくという気持ちは、どの時代でも変わってはいけないという事です。そして、先生と生徒、大人と子どもではなく、人と人がぶつかり合い向き合う事によって、大人達も子ども達と一緒に成長していかなければならないという事です。人が生きていく根本として…昔も今も未来も変わってはいけない大切な事があるという事を、この映画「かば」を通して全国の皆さんに伝えていきたいと思っています。

映画「かば」プロデューサー・監督・脚本・原作 川本貴弘



《料金》

一般 1,500円
60歳以上・大学生・障害者 1,000円
高校生 800円
中学生 500円
小学生以下 無料

《お問い合わせ》

【メールアドレス】

dragon6424435@gmail.com

映画「かば」プロデューサー, 監督 川本貴弘

映画「かば」公式サイト

あらすじ・予告・上映会・講演会のご依頼
お問い合わせは下記URL、右QRコードより
<https://kaba-cinema.com>

映画「かば」上映依頼、随時募集しています!



※混雑時、返信が遅くなる場合があります。
※当日受付のみとなります。事前受付、座席の予約も出来ませんのでお早めの
ご来場を宜しくお願い致します。